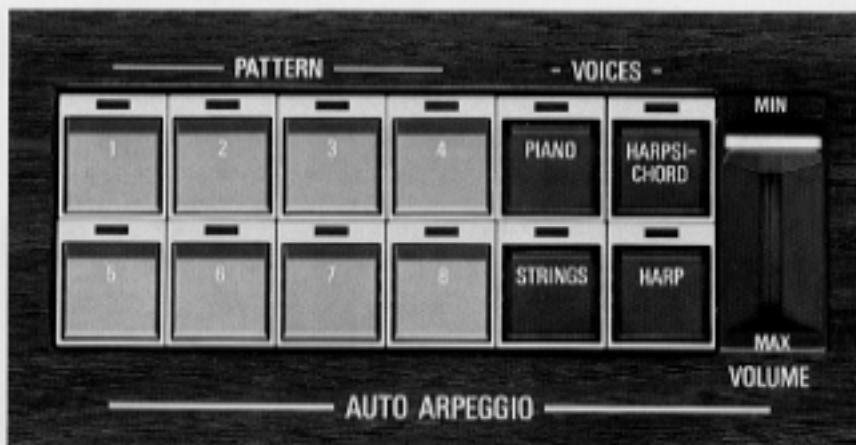




## 演奏補助機能



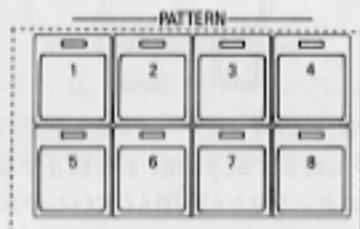
# AUTO ARPEGGIO オート アルペジオ

さまざまなパターンの分散和音が、リズムに連動して自動的に得られる機能です。効果音として演奏のバックに流せば、より華やかさを増します。それでは、実際に音をだしてみましょう。

## ①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

オートアルペジオはリズムに連動して働きますから、必ずオートリズムをセットし、スタートさせてください。アルペジオの速さも、セットしたリズムのテンポによって決められます。また、シンクロスタートのボタンを入れておけば、リズムとアルペジオを同時にスタートさせることができます。

## ②8つのPATTERN (パターン) のボタンのなかから、アルペジオのパターンをひとつ選びます。



いずれかひとつをONする。

アルペジオのパターンは、ひとつのリズムパターンに対して8つずつ用意されています。この8つのパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えると別のアルペジオパターンが得られます。

## ③4つのVOICES (ボイス) のボタンで、アルペジオの音色をひとつ選びます。



いずれかひとつをONする。

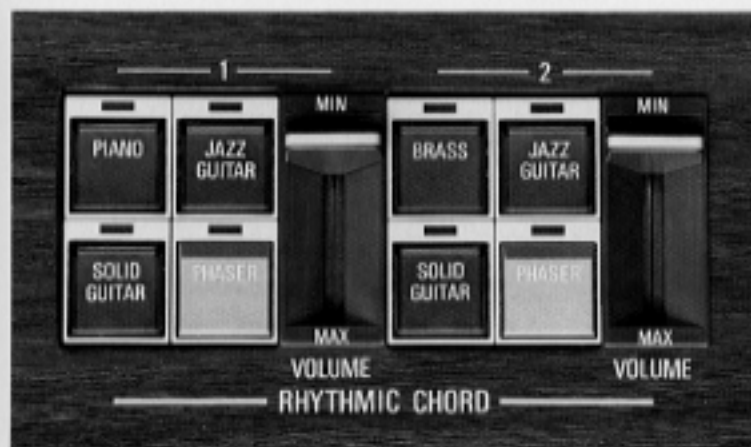
押したボタンの音色がアルペジオの音色になります。それぞれの音色には、サステインなどの効果が、あらかじめ組み込まれています。

## ④VOLUME (ボリューム) のスライダーを下に下げます。

以上のようにセットして、下鍵盤をおさえると、アルペジオが自動的に得られます。このとき、下鍵盤でおさえるコードのポジションを変えると、それに応じてアルペジオの音域も変わります。リズムやアルペジオのパターンをいろいろと変え、どのようなアルペジオが得られるかを確認してください。なお、オートアルペジオが不要のときは、ボリュームをMIN (最小) にセットします。

★オートベース/コードセクションのLOWER MEMORY (ローメモリー) のボタンを入れると、下鍵盤から指を離した後も、アルペジオが鳴り続けます。

★ブレーク/リレーションを作動させている間は、オートアルペジオが一時的にストップします。



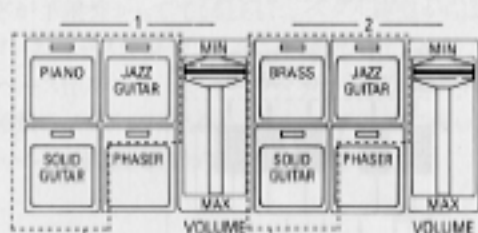
## RHYTHMIC CHORD リズミックコード

下鍵盤をおさえ続けるだけで、ピアノやギターなどの音が、リズムに合わせて自動的にきざまれる機能です。選んだリズムにふさわしいカッティング伴奏が得られ、多彩な効果を生み出すことができます。

### ①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

リズミックコードは、リズムに連動して働きますから、必ずリズムをセットし、スタートさせてください。カッティングの速さも、セットしたリズムのテンポによって決められます。また、シンクロススタートのボタンを入れておけば、リズムとリズミックコードを同時にスタートさせることができます。

### ②音色を選びます。



それぞれひとつずつONする。

リズミックコードは2つのグループに分かれており、どちらも3つずつの音色が用意されています。1のグループと2のグループでは、リズムのきざみ方がちがいますから、2種類のカッティングパターンが同時に得られます。また、カッティングパターンは、リズムにふさわしいものがセットされていますから、リズムを変えると、別のパターンが得られます。

### ③2つのVOLUME (ボリューム) のスライダーを下に下げます。

2つあるパターンの片方だけをだしたいときは、他方のボリュームをMIN (最小) にセットしてください。

以上のようにセットして下鍵盤をおさえると、②で選んだ音色が、リズムに合わせてカッティングパターンをきざみます。リズムパターンを変え、どのようなカッティングパターンが得られるかを確認してください。なお、リズミックコードが不要のときは、2つのボリュームを両方ともMIN (最小) にセットします。

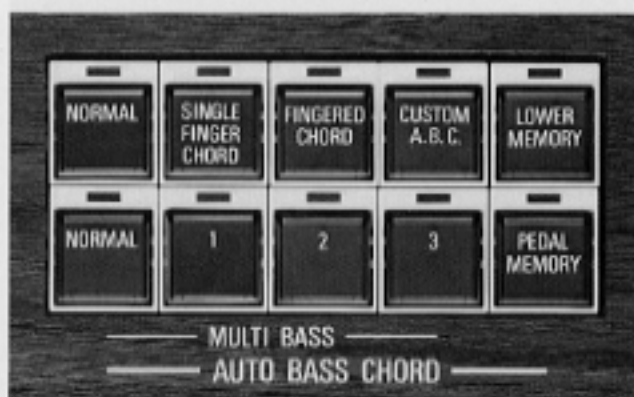
★オートベース/コードセクションのLOWER MEMORY (ローメモリー) のボタンを入れると、下鍵盤から指を離した後も、リズミックコードの音が鳴り続けます。

★ブレーク/バリエーションを作動させている間は、リズミックコードがブレーク用のパターンに変化します。

## ●PHASER (フェイザー)



フェイザーとは、音にゆるやかな回転感と広がり感をもたせ、独特の響きにする効果です。これは、音の位相を時間的に変化させるもので、ボタンを入れるだけで、そのとき選んでいるリズミックコードの音色に効果を加えることができます。お好みに応じてセットしてください。



## AUTO BASS CHORD オートベース/コード

コード伴奏とベース伴奏が自動的に得られる機能です。シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA、B、C、の3つの使い方ができ、ベース伴奏のパターンはマルチベースによって変化させることができます。また、指や足を鍵盤から離れた後も自動伴奏を持続させるメモリー機能も用意されています。

### シングルフィンガーコード

#### ①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

オートリズムをセットし、スタートさせてください。シンクロスタートのボタンを入れておけば、リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができます。

#### ②SINGLE FINGER CHORD (シングルフィンガーコード) のボタンを入れます。



#### ③下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセットします。(12、13ページを参照してください。)

下鍵盤とペダル鍵盤の音色群のほかに、リズムミックコードをセットすれば、カッティング伴奏を同時に得ることができます。お好みに応じてセットしてください。(25ページを参照してください。)

#### ④MULTI BASS (マルチベース) の4つのボタンで、ベース伴奏のパターンを選びます。



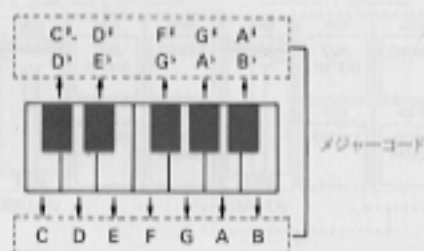
いずれかひとつをONする。

NORMAL (ノーマル) のボタンが入っていると、ベース伴奏はペダル鍵盤で踏んだ音がくり返すパターンや1度と5度の音が交互にでてくるパターンになります。1・2・3のボタンでは、より複雑なウォーキングベースなどのパターンが得られます。また、4つのボタンで得られるベースパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えるとベースパターンも変わります。

以上のようにセットして、下鍵盤を1音だけおさえてください。下鍵盤の音は、おさえた音を根音とするメジャーコードとなって得られます。リズムミックコードをセットしておけば、リズムに連動したカッティング伴奏も自動的に和音となります。

ペダル鍵盤からは、リズムに連動したベース伴奏が、下鍵盤で検出されたコードをもとにして得られます。マルチベースのボタンでベースパターンを変化させ、どのようなベース伴奏になるかを確認してください。

★下鍵盤でおさえる音と自動的に得られるメジャーコードの関係は次のとおりです。なお、シングルフィンガーコードでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、自動伴奏の音域は変わりません。



★下鍵盤を2つあるいは3つ同時におさえることで、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードが簡単に得られます。

**マイナーコード**：コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵を同時におさえる。

**セブンスコード**：コードの根音とともに、それより下の音域の白鍵を同時におさえる。

**マイナーセブンスコード**：コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵と白鍵を同時におさえる。

★シングルフィンガーコードでは、オートリズムを使わないときでも自動伴奏が得られます。その場合、リズムミックコードの音はでなくなりますが、下鍵盤の音は自動的にコードとなり、ペダル鍵盤からはコードの根音が自動的にでます。

## フィンガードコード



下鍵盤でコードをおさえるだけで、コードとベースの自動伴奏が得られる機能です。操作は、FINGERED CHORD(フィンガードコード)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットして、下鍵盤でコードをおさえてください。おさえたおりのコードが下鍵盤からでてくるとともに、ペダル鍵盤からは、そのコードにもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。フィンガードコードのベース伴奏では、メジャーやマイナーなどのコード以外にもさまざまな種類のコードが検出されますから、下鍵盤で弾いたコードによさわいベース伴奏が自動的に得られます。

## カスタムA.B.C.



下鍵盤で弾くコードとは別に、ペダル鍵盤を1音押すだけでベース伴奏が得られる機能です。操作は、CUSTOM A.B.C.(カスタムA.B.C.)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットしたうえで、下鍵盤でコードを弾き、ペダル鍵盤を1音おさえてください。下鍵盤は、弾いたコードがそのままでてきますが、ペダル鍵盤からは、おさえた音にもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。ペダル鍵盤でおさえる音は、コードの根音以外の音も任意に選べますから、より変化に富んだ自動伴奏が可能です。また、メジャーやマイナーといったコードの種類も自動的に検出されますから、下鍵盤で弾いたコードによさわいベース伴奏が得られます。

## ●LOWER MEMORY(ロワーメモリー)



下鍵盤から指を離した後、それまで弾いていた音をそのまま持続させる機能です。リズムがスタートしているとき、このボタンを入れると、セットしている下鍵盤の音色が指を離しても鳴り続けます。(スペシャルプリセットの減衰音は除く。)したがって、コードをチェンジするとき以外は、下鍵盤から指を離してもかまいません。なお、ロワーメモリーはオートベース/コードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。

## ●PEDAL MEMORY(ペダルメモリー)



ペダル鍵盤から足を離した後も、ベース伴奏を持続させる機能です。リズムをスタートさせ、オートベース/コードをセットしているとき、このボタンを入れると、ペダル鍵盤の音が足を離しても鳴り続けます。したがって、ベース伴奏の音程を変えるとき以外は、ペダル鍵盤から足を離してもかまいません。なお、ペダルメモリーはオートベース/コードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。また、ロワーメモリーとペダルメモリーを同時に使うこともできます。

★左上のNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、シングルフィンガードコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.がキャンセルされます。

★ブレーク/リエーションを作動させている間は、ベース伴奏が「ブレーク用のパターン」に変化します。





## PLAY ASSIST プレイアシスト

上鍵盤で弾くメロディーラインに、さまざまな付加音を自動的に重ねる機能です。2種類のメロディーオンコード、およびデュエット、カウンターメロディーの4つの使い方ができ、いずれもヤマハのコンピュータ技術が結集されています。付加音は音楽的に適合性のあるものが自動的に選ばれますから、表現機能の一部として充分活用することができます。

### メロディーオンコード 1・2

メロディーラインの下にハーモニーを自動的に加える機能で、1と2の2種類があります。下鍵盤で弾くコードの構成音が検出され、上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーとして重なりますから、厚みのある響きが得られます。

- ① MELODY ON CHORD (メロディーオンコード) 1または2のボタンを入れます。



メロディーオンコード1：このボタンを選んだときは、最高2音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

メロディーオンコード2：このボタンを選んだときは、最高3音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

- ② 音色をセットします。



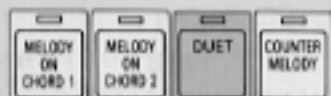
この3つのボタンで、自動的に加わるハーモニーの音色を決めます。ボタンを入れるとその音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。2つ以上のボタンを同時にセットすることもできます。なお、これらのボタンでは、アンサンブルセクションのボタンとは関係なく音色群が呼びだせます。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ弾いてください。メロディーラインの下に美しいハーモニーが自動的に加わります。

### デュエット

メロディーラインの下に付加音が自動的に加わり、メロディーの二重奏が簡単に得られる機能です。上鍵盤で弾くメロディーと、下鍵盤で弾くコードの流れをエレクトーンが素早く読み取り、付加音としてふさわしい音を検出しますから、音楽的にもハイレベルの演奏ができます。

- ① DUET (デュエット) のボタンを入れます。

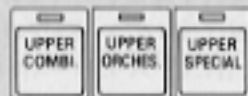


- ② 演奏する曲のキー (調) をメモリーします。



デュエットでは、自動的に加わる付加音を音楽的に適合性の高いものとするため、演奏する曲のキーをあらかじめメモリーさせます。まず、演奏する曲のキーのトリックコードを下鍵盤でおさえます。(例えば、ハ長調ならCメジャーコード、イ短調ならAマイナーコードをおさえてください。) 次に、そのトリックコードをおさえたまま、KEYSET (キーセット) のボタンを押します。キーセットのランプが点滅して、キーがメモリーされたことを示します。

- ③ 音色をセットします。



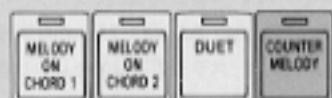
ひとつまたは複数のボタンを入れて、付加音の音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとコードの流れにそった美しい二重奏が自動的に得られます。

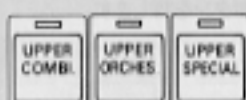
## カウンターメロディー

上・下鍵盤を弾くだけで、効果的な対旋律がメロディーラインに加わる機能です。下鍵盤で弾くコードの構成音のなかから、付加音としてふさわしい音が検出され、上鍵盤で弾くメロディーに従って、自動的にカウンターメロディーとして得られます。

① COUNTER MELODY(カウンターメロディー)のボタンを入れます。



② 音色をセットします。



ひとつまたは複数のボタンを入れて、カウンターメロディーの音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとはちがったタイミングで、効果的なカウンターメロディーが自動的に加わります。

## ニーレバーコントロール



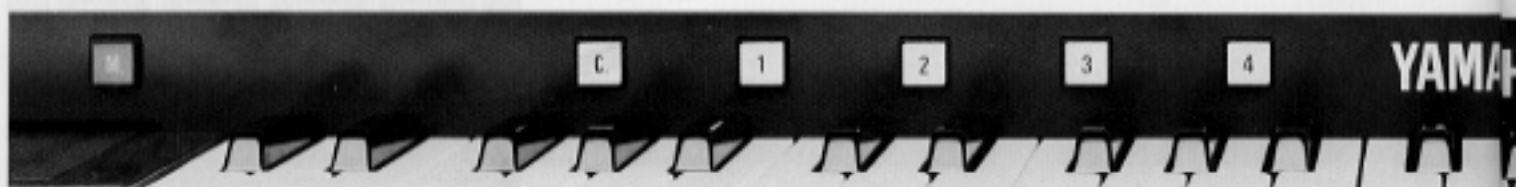
プレイアシストの4つの機能は、ニーレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、サステインセクションにあるPLAY ASSIST (KNEE) (プレイアシスト(ニー))のボタンを入れ、ニーレバーを真下に立てておきます。演奏中に付加音を加えたいところになったら、ニーレバーを右ひざで右に押してください。押しつけている間だけ付加音が得られます。

## SLIDER DRIVE (スライダードライブ)

### SLIDER DRIVE

メロディー・トレース・スレーションを取り込むときに、このボタンを入れておくと、すべてのスライダーの位置が固定されます。したがって、演奏中にスライダーの位置を調整しなくても、スライダーの位置を覚えておくことができます。また、ボリュームなどのスライダーは調整できませんが、音質や効果の調整はメロディー・トレース・スレーションの時と同じです。スライダーの位置が固定されるように設定してください。

## レジストレーションメモリーシステム



## レジストレーションメモリー

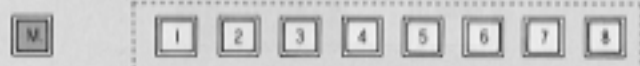
上鍵盤と下鍵盤の間にあるボタンを使えば、パネル面でセットしたレジストレーションを、すべて一度にメモリーでき、メモリーしたレジストレーションは、ボタンひとつでいつでも取り出すことができます。音色や効果、リズムのセッティングのほか、ボリュームスライダーの位置もそのままパネル面に再現されますから、レジストレーションの変更を目でも確認できます。それでは、実際に操作してみましょう。

## レジストレーションをメモリーする操作

## ①メモリーしたいレジストレーションをセットします。

メモリーできるセッティングは、音色、効果、リズム、演奏補助機能のすべてのボタンとスライダーです。リズムのテンポもメモリーすることができます。

## ②M.(メモリー)のボタンを押しながら、1~8のボタンのいずれかをひとつ押します。



M.を押しながら、いずれかひとつをONする。

押した番号のボタンが点滅し、①でセットしたレジストレーションがメモリーされたことを示します。以上の操作をしておけば、パネル面のレジストレーションをどのように変更しても、そのボタンを押すだけで、メモリーしたレジストレーションが取りだせます。他の7つのボタンにも、それぞれお気に入りのレジストレーションをメモリーしてみましょう。

★コンビネーションのメモリーボタン、ビブラートのブレイカーボタン、リズムのプログラムボタンをセットすれば、そのときそれらに記憶させている情報をメモリーすることができます。

★リバーブ、リズムのスタートとシンクロススタートのボタン、ブレークボタン、レジストレーションバックのボタン、トレモロスピード、マスターボリューム、エクスプレッションペダル、ピッチコントロール、パネルライトのスイッチなどは、メモリーの操作とは無関係です。

★いったんメモリーしたレジストレーションの情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じボタンに新しいレジストレーションをメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的に消えます。

## メモリーしたレジストレーションを取り出す操作

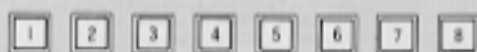
## ①演奏する曲に使うレジストレーションを1~8のボタンにメモリーしておきます。

ボタンの番号が小さい方から、取り出す順序どおりにメモリーしておくくと便利です。

## ②曲の最初に使うレジストレーションを、1~8のボタンのひとつを押して取りだします。

押したボタンが点灯し、パネル面では、メモリーしておいたセレクトボタンが自動的に入り、スライダーもメモリーしておいた位置に移動します。1~8のボタンを使わず、パネル面でレジストレーションをセットしてもかまいません。

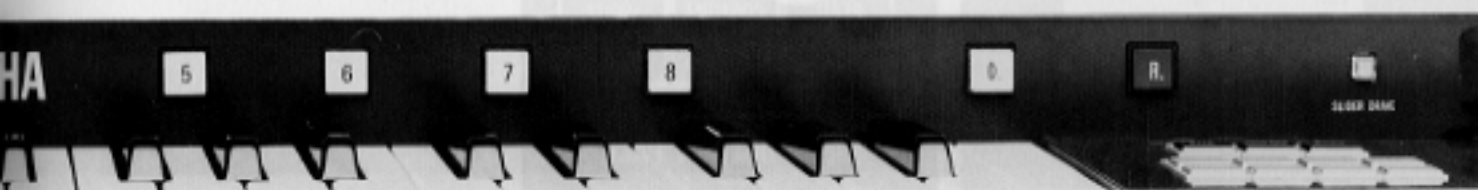
## ③演奏を始め、レジストレーションを変更したいところになったら、それをメモリーしておいたボタンを押します。



ボタンを押すたびに、パネル面のボタンとスライダーの位置が変わり、メモリーしておいたレジストレーションが素早く取りだせます。

★1~8のボタンを押して、メモリーしておいたレジストレーションを取りだしているときでも、パネル面を操作して、レジストレーションを変更することができます。その場合、1~8のボタンのランプは消えますが、メモリーされている情報は消えません。したがって、再度同じボタンを押すと、パネル面で変更した部分はもとにもどります。





## ●CANCEL (キャンセル)



このボタンには、パネル面で最後にセットしたレジストレーション(1~8のボタンで変更したレジストレーションは除く)が、つねにメモリーされています。したがって、1~8のボタンを押してレジストレーションを変更した後、このボタンを押せば、パネル面でセットしたレジストレーションに、いつでもどすことができます。演奏を始めるときに、曲の中でよく使うレジストレーションをパネル面でセットしておき、キャンセルボタンで何度も取りだすという使い方も可能です。

ただし、1~8のボタンを入れているときに、パネル面でレジストレーションを変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。したがってこの場合、キャンセルボタンを押して得られるレジストレーションは、パネル面で変更した後のものになります。

## ●DISABLE (デイスエーブル)



メモリーしたレジストレーションを取りだすとき、このボタンを入れておくと、リズムセクションと演奏補助機能のセッティングが固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、リズム、オートアルペジオ、リズムミックスコード、オートベース/コード、プレイアシストのセッティングは同じ状態に保たれます。音色と効果のセッティングのみ変更したいときにお使いください。

## ●SLIDER DRIVE (スライダー ドライブ)



### SLIDER DRIVE

メモリーしたレジストレーションを取りだすとき、このボタンを入れておくと、すべてのスライダーの位置が固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、ボリュームなどのスライダーは移動しませんが、音量や効果の深さはメモリーしておいたものが得られます。スライダーの作動音が気になるときにお使いください。

## ●電源スイッチを切ったときの自動メモリー

電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションが自動的にメモリーされます。したがって、電源を切っている間にパネル面のセッティングを変更しても、再び電源スイッチを入ると、電源を切ったときのセッティングにもどります。

## ●RESET (リセット)



パネル面でセットしているレジストレーションを、すべて一度にキャンセルするボタンです。このボタンを押すと、各音色群やリズムなどのセレクトボタンは左上のものが入り、各音色群のプリセットビブラート、タッチトーンのボタンがONになり、アンサンブルセクションは、上・下鍵盤のオーケストラのボタンがONになります。また、ボリュームなどのスライダーはすべてMIN(最小)かノーマルの位置にセットされます。メモリーするレジストレーションをパネル面でセッティングするとき、最初にこのボタンを押せば、レジストレーションの変更もれが防げます。また、リセットボタンは、レジストレーションメモリーとは関係なく、いつでも使うことができます。なお、このボタンを入れることで、1~8のボタンにメモリーした情報が消えることはありません。

★非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンにメモリーされている情報が変わったり、パネル面が正常に機能しなくなることがあります。その場合は、いったん電源スイッチを切り、RESET(リセット)ボタンを押しながら、電源スイッチを入れてください。

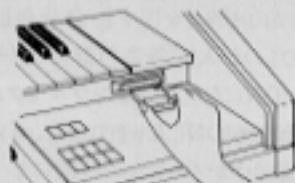


## REGISTRATION PACK レジストレーション パック

1～8のボタンにメモリーしたレジストレーションの情報は、そのままレジストレーションパックに移し、ストックしておくことができます。また、レジストレーションパックに移した情報は、エレクトーンにメモリーさせることができ、いつでも自由に取りだせます。なお、付属のレジストレーションパックには、8つのレジストレーションがあらかじめメモリーされています。まず最初に、この情報をエレクトーンに移してみましょう。

### レジストレーションパックの情報をエレクトーンにメモリーする操作

- ① 付属のレジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。



図のように、ラベルの貼ってある面を上にして、しっかりと差し込んでください。すると、MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯し、メモリーできる状態になったことを示します。

- ② CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、READ(リード)のボタンを押します。



すると、READ(リード)ボタンのランプが点滅し、エレクトーンに情報がメモリーされたことを示します。この操作をした後は、レジストレーションパックを引き抜いてもかまいません。

- ③ レジストレーションを1～8のボタンで取りだします。

1～8のボタンを押すことで、パックにメモリーされていたレジストレーションがパネル面で得られます。

★ パックを正しく差し込まなかった場合は、ERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。そのときは、もう一度入れ直してください。

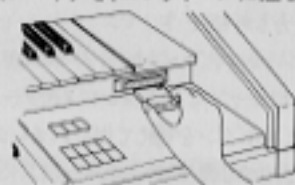
★ 以上の操作をすることで、パックにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまで1～8のボタンにメモリーしていた情報は消えてしまいます。

### エレクトーンの情報をレジストレーションパックにメモリーする操作

- ① まず、1～8のボタンにパネル面のレジストレーションをメモリーします。(30ページを参照してください。)



- ② レジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。



METHOD (メモリーレディ)のインジケータランプが点灯することを確認してください。

- ③ CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、WRITE(ライト)のボタンを押します。



すると、WRITE(ライト)ボタンのランプが点滅し、レジストレーションパックに情報がメモリーされたことを示します。

- ④ レジストレーションパックを引き抜きます。

このようにして、必要なレジストレーションをパックに移し、ストックしておくことができます。パックにメモリーした情報は、READ(リード)ボタンを使うことで、いつでもエレクトーンに移すことができます。

★ 以上の操作で、エレクトーンにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまでレジストレーションパックにメモリーされていた情報は消えてしまいます。

## 電圧調整について

※電圧調整は下記の手順で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

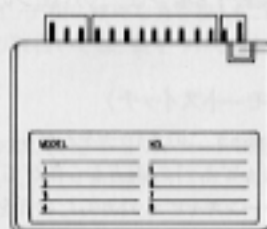
※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

※電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

★数多くのレジストレーションをストックしておきたい場合は、別売りのレジストレーションパックをお求めください。なお、別売りのレジストレーションパックを使用した場合、パックをエレクトーンに差し込むとERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。この場合は、パックを差し込んだまま、まずCONFIRM(コンファーム)のボタンを押してください。ERROR(エラー)の点滅が消え、WRITE(ライト)の操作によってエレクトーンの情報パックに移せるようになります。

★レジストレーションパックにメモリーした情報を消したくない場合は、消去防止用のツメを折ってください。このツメを折っておけば、たとえWRITE(ライト)のボタンを使ってメモリーの操作をしても、パックの情報は保護されますから、誤って消してしまうミスが防げます。



## 電圧調整の手順について

このエレクトーンは、デジタル回路を使用しています。このため、電源電圧の安定が非常に重要です。電源電圧が安定しない場合、音質や音程の精度が低下します。電源電圧の安定を確保するために、電源電圧調整を行う必要があります。

## 電源に対する注意

電源電圧が安定しない場合は、電源電圧調整を行う必要があります。電源電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

## パワー系統が安定しない

電源電圧が安定しない場合は、電源電圧調整を行う必要があります。電源電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

## 電源と保護装置の保管について

電源電圧が安定しない場合は、電源電圧調整を行う必要があります。電源電圧調整は、必ず電源がオフの状態で行ってください。

レジストレーションパックの内部には、レジストレーションの電子回路が組み込まれています。このため、電源電圧の安定が非常に重要です。電源電圧が安定しない場合、音質や音程の精度が低下します。電源電圧の安定を確保するために、電源電圧調整を行う必要があります。

## ●MASTER VOLUME (マスターボリューム)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみで、右に回すほど音量が大きくなります。

## ●POWER (パワー スイッチ)

エレクトーンのパネル面と鍵盤を照らすパネルライトのスイッチで、棚板下にあります。ON側にセットするとライトが点灯します。

## ●LIGHTS (パネルライトスイッチ) (FS-70のみ)

エレクトーンのパネル面と鍵盤を照らすパネルライトのスイッチで、棚板下にあります。ON側にセットするとライトが点灯します。



## ●PITCH CONTROL (ピッチ コントロール)

エレクトーン全体の音程が、微妙にコントロールできるつまみで、棚板下にあります。図の位置が標準セット位置で、右に回すほど音程が高くなります。



# 付属端子・トーンキャビネットコネクター



## 付属端子

●STEREO HEADPHONES(ステレオヘッドホン端子)  
ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使うと、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。なお、モノラルヘッドホンも接続することもできます。

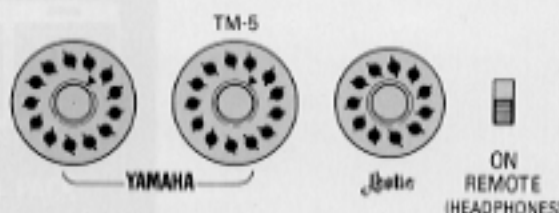
●AUX. OUT LEFT-RIGHT(ライン出力端子)  
アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テーブデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。

●AUX. IN LEFT-RIGHT(ライン入力端子)  
ステレオやテーブの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード、テーブの音に合わせて演奏することができます。

●EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)  
シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。



## トーンキャビネットコネクター

トーンキャビネットコネクターは、エレクトーンの背面にあります。ステージ演奏の際などにご使用ください。

●YAMAHA(ヤマハトーンキャビネットコネクター)  
3チャンネルのアンプ/スピーカーを内蔵したTX-1など、ヤマハのトーンキャビネットと接続するときに使う13ピンのコネクターです。ステージ演奏などにご活用ください。

●LESLIE(レスリースピーカーコネクター)  
レスリースピーカーを接続する場合は、この11ピンのコネクターをお使いください。

●REMOTE(リモートスイッチ)  
ヘッドホンが接続しているとき、このスイッチを入れると、エレクトーンとエレクトーンに接続したトーンキャビネットの両方から音がでなくなります。エレクトーンから音をださずに、トーンキャビネットからだけ音をだしたい場合は、このスイッチを切ってください。



# 取扱上の注意

東芝の製品は、品質と信頼性を重視して製造されています。

## 末永く安全にお使いいただくために

### 設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。

### 外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。

### 電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの破損は危険ですからさけてください。

### 無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子、譜面板などの取扱いは、破損をしないように注意してください。

### セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

### 他の機器との接続について

トーンキャビネットなどを接続する場合は、34ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

### 他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

### 落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

### 万一異状があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

### 本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

## レジストレーションパックの保管

レジストレーションパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管では、次の点に注意してください。

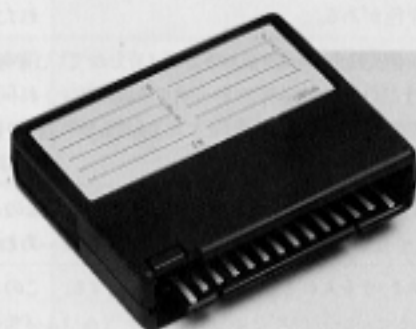
- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、破損をつけないでください。
- 内部に水やホコリを入らないように、ご注意ください。
- 保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

★レジストレーションパックにメモリーされた情報は、内蔵の電池によってバックアップされていますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうと、メモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は、通常の使用で約5年です。)

### レジストレーションパック(別売り)

レジストレーションパックは、付属のもの以外に、別売りオプションとしても用意しています。数個のパックにレジストレーションをメモリーし、ストックしておけば、コンサートなどで幅広くご利用いただけます。

★別売りのレジストレーションパックを使用する場合は、まず最初にパックをエレクトーンに差し込み、CONFIRM(コンファーム)のボタンを押してください。ERROR(エラー)の点滅が消え、WRITE(ライト)の操作ができるようになります。



# 故障と誤りやすい現象

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリツとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、ソロ音色、アッパー/ローカustomボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびソロ音色、アッパー/ローカcustomボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。また、ソロ音色、アッパー/ローカcustomボイス音色では、他の音色と組み合わせずに各鍵盤で単独に使った場合は、後でおさえた1音が優先されます。
上・下鍵盤をあわせて同時に13音以上おさえると、でない音がある。	このエレクトーンでは、上・下鍵盤を13音以上同時におさえると発音しない音があります。ただし、上・下鍵盤あわせて12音まで同時に発音しますので、通常の演奏にはまったく支障はありません。
電源スイッチを入ると、スライダーが移動する。	このエレクトーンでは、電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションを自動的にメモリーするようになっています。したがって、電源を切っている間にボタンのセッティングやスライダーの位置を変更しても、再び電源スイッチを入ると変更前のレジストレーションに戻ります。(31ページ参照)
上・下鍵盤の音色を選んで、ボリュームのスライダーを下げて、選んだ音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色群のボタンを入れてください。(6ページ参照)
音色セレクトボタンを入れただけで、効果のボタンが入る。	音色によっては、レスポンスファースト、ティンバーバリエーション、シンフォニックなどのボタンが、音色を選ぶと同時に自動的に入るようになっています。これは、それらの効果をかけたほうが、その音色にふさわしい響きが得られるためです。あえて効果をかけたくない場合は、ONされている効果のボタンを押すとキャンセルされます。
鍵盤をレガートに弾いたとき、アタック音またはディレイビブラートが最初の音にしかかからない。	上・下鍵盤のコンビネーションのアタック音、およびオーケストラ音色にかかるディレイビブラートは、鍵盤をレガートに弾いた場合、最初の音に対してだけかかるように設計されています。

現 象	原 因 と 処 置
セットとレバーのボタンを押しても、ビブラートのメモリーができない。(プレイヤーのボタンが点滅しない。)	ビブラートのかかり方を変更したい音色のボタンを押さなかったためです。レバーのボタンを押した後、必ず音色セレクトボタンを押して、インジケーターランプが点灯したことを確認してからメモリーの操作を行ってください。(17ページ参照)
プリセットビブラートのボタンを入れても、ビブラートがかからない。	音色によっては、プリセットビブラートのボタンを入れても、わずかしきビブラートのかからないものや、まったくビブラートがかからないものがあります。また、ビブラートのかかり方をメモリーせずにプレイヤーのボタンを入れると、ビブラートはかからなくなります。(16ページ参照)
タッチトーンのボタンを入れて鍵盤を強くおさえても音量・音色があまり変化しない。	イニシャルタッチ、アフタータッチによってコントロールできる音量・音色の変化の度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。したがって、オーケストラ音色におけるイニシャルタッチのように、音色によってはあまり変化しないものがあります。
ソロ音色をカプラー機能によって上鍵盤に移しているとき、低音域でソロ音色の音がでない。	ソロ音色は、3オクターブ(c1~c1)の音域でのみ発音されます。したがって、上鍵盤に移した場合でも中央Cより下の音域では発音しません。(14ページ参照)
デジタルディスプレイのテンポ表示の数字が細かく変わらない。	操作性を高めるため、テンポつまみでセットするリズムのテンポは、実際の演奏に支障のない範囲で、あらかじめ決められたものになっています。
パネル面でセットしたリズムパターンとは、違うリズムがでてくる。	リズムシーケンスプログラマーのプログラムボタンが入っているためです。プログラムボタンが入っていると、パネル面でセットしたリズムは、メモリーさせたリズムに自動的に変更されます。(22ページ参照)
下鍵盤、あるいはペダル鍵盤が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードセクションのローメモリーを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、ペダルメモリーを入れると、ペダル鍵盤から足を離しても音が鳴り続けます。(27ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤をおさえても、プレイアシストによる付加音がでてこない。	付加音の音色がセットされていないためです。音色群を呼び出すボタンをひとつ、あるいは複数入れ、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。また、メロディーオンコード、デュエット、カウンターメロディーのいずれかを使用しているとき、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、付加音が発音しない場合があります。(28、29ページ参照)
レジストレーションメモリーのキャンセルボタンを押しても、最初のレジストレーションに戻らない。	キャンセルボタンでは、パネル面で最後にセットしたレジストレーションが得られるようになっています。したがって、1~8のボタンを入れているとき、パネル面でレジストレーションを少しでも変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。(31ページ参照)
レジストレーションメモリーの1~8のボタンを押しても、リズムやオート機能のセッティングが変わらない。または、すべてのスライダーが移動しない。	デイスエーブル、またはスライダードライブのボタンが入っているためです。すべてのレジストレーションを切りかえたい場合は、デイスエーブル、スライダードライブのボタンを切ってください。(31ページ参照)
ライトとコンファームのボタンを押しても、レジストレーションパックにメモリーできない。(ライトのランプが点滅しない。)	レジストレーションパックの消去防止用のツメが折れているためです。このツメが折れていると、レジストレーションパックにメモリーする操作はできません。また、レジストレーションパックを正しく差し込まないと、ライトおよびリードのメモリー操作はできません。必ずメモリーレディのランプが点灯することを確認してから操作してください。(32ページ参照)
パネル面のボタンなどが正常に働かない。(ボタンのランプがすべて消えてしまうなど。) または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	このような場合には、いったん電源スイッチを切り、リセットのボタンを押しながら電源スイッチを入れると、正常に機能するようになります。それでもなお正常な状態に戻らないときは、お求めの楽器店、あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

# サービスと保証

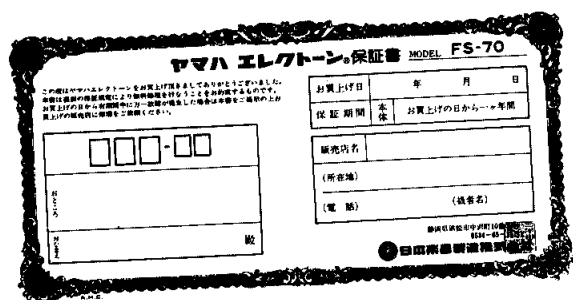
## 保証

エレクトーン®の保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満10年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

## 保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

## 保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う10年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンの椅子の下にある保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

## 納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

## 保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

## 保証期間後のサービス

満10年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。



## サービスのご依頼

### ●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。  
(36～37 ページの「故障と誤りやすい現象」を参照)

### ●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音がかかる●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音がかかるなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

### ●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。  
症状……なるべく具体的に。

### サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスを依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

## ヤマハ電気音響製品サービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

### 〔お客様相談窓口〕

#### 東京電音サービスセンター ☎03(255)2241

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

東京電音サービスステーション ☎03(255)2241

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

東京ステレオサービスステーション ☎03(255)2241

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

横浜電音サービスステーション ☎045(212)2223

〒231 横浜市中区本町6-61-1

新潟電音サービスステーション ☎0252(43)4321

〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

#### 大阪電音サービスセンター ☎06(877)5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

大阪電音サービスステーション ☎06(877)5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

大阪ステレオサービスステーション ☎06(877)5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション ☎0878(51)7777・0878(22)3045

〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器製造(株)高松店内

#### 名古屋電音サービスセンター ☎052(231)2432

〒460 名古屋市中区栄1-8-7

名古屋電音サービスステーション ☎052(231)2432

〒460 名古屋市中区栄1-8-7

#### 浜松電音サービスステーション ☎0534(56)9211

〒430 浜松市東伊場2-14-1

#### 九州電音サービスセンター ☎092(472)2134

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

九州電音サービスステーション ☎092(472)2134

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

広島電音サービスステーション ☎082(874)3787

〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3

#### 北海道電音サービスセンター ☎011(781)3621

〒065 札幌市東区本町1条9-3

北海道電音サービスステーション ☎011(781)3621

〒065 札幌市東区本町1条9-3

#### 仙台電音サービスセンター ☎0222(96)0249

〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

仙台電音サービスステーション ☎0222(96)0249

〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

### 〔お預り修理窓口〕

東京電音サービスデポ ☎03(904)4901 〒171 東京都練馬区高野台2-3-10

大阪電音サービスデポ ☎06(877)5262 〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスデポ ☎052(231)7896 〒460 名古屋市中区栄1-8-7

九州電音サービスデポ ☎092(472)2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスデポ ☎011(781)3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスデポ ☎0222(96)0249 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

### 〔本社〕

営業技術課 電音サービスセンター ☎0534(65)1111

〒430 浜松市中沢町10-1

# 仕様と音域表

## 仕様

青色の部分はFS-70のみの仕様です。

### ●鍵盤

- ソロ鍵盤 : 37鍵  $c_1 \sim c_3$  (3オクターブ)
- 上鍵盤 : 49鍵  $c \sim c_4$  (4オクターブ)
- 下鍵盤 : 49鍵  $C \sim c_3$  (4オクターブ)
- ペダル鍵盤 : 13鍵  $C \sim c$  (1オクターブ)

### ●コンビネーション

- 上鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4  
(コントロール) ボリューム  
(レバー)  $16' \cdot 8' \cdot 5\frac{1}{3}' \cdot 4' \cdot 2\frac{2}{3}' \cdot 2' \cdot 1'$   
アタック  $4' \cdot 2\frac{2}{3}' \cdot 2'$ 、アタックレングス
- 下鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4  
(コントロール) ボリューム  
(レバー)  $8' \cdot 4' \cdot 2\frac{2}{3}' \cdot 2'$
- ペダル鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー、プリセット1、プリセット2  
(コントロール) ボリューム  
(レバー)  $16' \cdot 8'$
- メモリー・エフェクト : プログラムセット、レスポンスファースト、  
ティンバーバリエーション

### ●オーケストラ

- 上鍵盤 : スtrings1、Strings2、Strings3、ブラス1、ブラス2、  
リード1、リード2、ボーカル、スパイス1、スパイス2  
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、  
ボリューム
- 下鍵盤 : スtrings1、Strings2、ブラス1、ブラス2、リード、  
ボーカル1、ボーカル2、スパイス  
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、  
ボリューム

### ●スペシャルプリセット

- 上鍵盤 : ピアノ、ハープシコード、チェレスタ、ビブラフォン、マリンバ、  
マンドリン、バンジョー、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、  
コズミック  
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム
- 下鍵盤 : ピアノ、エレクトリックピアノ、ハープシコード、ハープ、  
アコースティックギター、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、  
コズミック  
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム

### ●カスタムボイス

- 上・下鍵盤 : フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、トランペット、  
トロンボーン、バイオリン、ジャズギター、コズミック1、コズミック2、  
コズミック3、  
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチビブラート、  
タッチトーン、ボリューム
- ペダル鍵盤 : コントラバス1、コントラバス2、コントラバス3、チューバ、  
エレクトリックベース1、エレクトリックベース2、  
エレクトリックベース3、コズミック  
(コントロール) ブリリアンス、ボリューム

### ●ソロ

- 音色 : ヒッコロ、フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、  
トランペット1、トランペット2、ホルン、トロンボーン、バイオリン、  
ジャズギター、ハーモニカ、コズミック1、コズミック2
- エフェクト・コントロール : デチューン、カフラー(ソロトゥーアッパー)、  
トランスポジション(ダウナー・ノーマル・アップ)、プリセットビブラート、  
タッチビブラート、タッチトーン、ブリリアンス、ボリューム、  
スライドコントロール

### ●アンサンブル

- アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、アッパースペシャルプリセット、  
アッパーカスタムボイス、ローワーコンビネーション、ローワーオーケストラ、  
ローワースペシャルプリセット、ローワースペシャルボイス

### ●エフェクト・コントロール

- サステイン : アッパーサステイン(ニー)、ローサステイン(ニー)、  
ペダルサステイン  
(レングスコントロール) アッパー、ロー、ペダル
- シンフォニック : セレステ、シンフォニック、アッパーコンビネーション、  
アッパーオーケストラ、ローワーコンビネーション、ローワーオーケストラ
- トレモロ : コーラス、トレモロ、アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、  
ローワーコンビネーション、ローワーオーケストラ、トレモロスピード
- ビブラート : セット、レバー、プレイヤー、プリセット  
(レバー) タッチデプス、ディレイ、デプス、スピード  
(インジケーター) ソロ、アッパーオーケストラ、  
アッパー/ローワースペシャルボイス、ローワーオーケストラ、ペダル
- リバーブ、グラインド(フットスイッチ)、マニュアルバランス

### ●オートリズム

- リズムパターン : マーチ、ワルツ、バラード、スイング、バウンス、スローロック、  
8ビート1、8ビート2、タンゴ、ラテン1、ラテン2、ボサノバ、サンバ、  
ラテンロック、ディスコ、16ビート
- リズムバリエーション : 1・2・3・4
- コントロール : シンクロススタート、スタート、テンポ、ボリューム、バランス、  
リズムストップ(フットスイッチ)、テンポインジケーターランプ、  
デジタルディスプレイ
- ブレイクバリエーション : 1・2・3、ブレイク、  
ブレイクバリエーション(フットスイッチ)
- オートバリエーション : ノーマル、4バー、8バー、16バー
- リズムシーケンスプログラマー : プログラム1・2・3・4、オン、レコード、ブランク、  
エンド、バック、フワード

### ●オートアルペジオ

- パターン : 1・2・3・4・5・6・7・8
- ボイス : ピアノ、ハープシコード、Strings、ハーブ  
(コントロール) ボリューム

### ●リズムミックコード

- パターン1 : ピアノ、ジャズギター、ソリッドギター  
(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム
- パターン2 : ブラス、ジャズギター、ソリッドギター  
(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム

### ●オートベース/コード

- ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.、  
ローワーメモリー、ペダルメモリー、マルチベース(ノーマル・1・2・3)

### ●プレイアシスト

- メロディーオンコード1、メロディーオンコード2、デュエット、カウンターメロディー  
(音色セレクター) アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、  
アッパースペシャルプリセット  
(コントロール) キーセット、プレイアシスト(ニー)

### ●レジストレーションメモリー

- プリセットボタン : 1・2・3・4・5・6・7・8
- コントロール : メモリー、キャンセル、ディスプレイ、スライダードライブ
- レジストレーションバック : リード、コンファーム、ライト  
(インジケーター) メモリーレディ、エラー

### ●メインコントロール

- マスターボリューム、エクスプレッションペダル、リセット、ニーレバー、  
フットスイッチ、パワースイッチ、パイロットランプ、ピッチコントロール、  
パネルライトスイッチ

●付属端子・トーンキャビネットコネクター

付属端子 : ステレオヘッドホン、AUX. OUT (L-R)、AUX. IN (L-R)、EXP. IN

トーンキャビネットコネクター : ヤマハ×2、レスリー、リモート

●アンプ

センター : 90W(rms)、レフト : 60W(rms)、ライト : 60W(rms)

●スピーカー

センター : 30cm・20cm・5cm、レフト : 20cm・5cm、ライト : 20cm・5cm

●定格電圧100V・定格消費電力275W・定格周波数50/60Hz

●寸法・重量

FS-70本体 : 間口116.8cm、奥行75.3cm、高さ110.3cm (譜面板を立てたとき126.0cm)、重量132kg

FS-50本体 : 間口116.4cm、奥行66.8cm、高さ105.8cm (譜面板を立てたとき119.8cm)、重量122kg

椅子 : 間口66.0cm、奥行31.5cm、高さ55.7cm、重量7.5kg

●外装

リアルアメリカンウォルナット

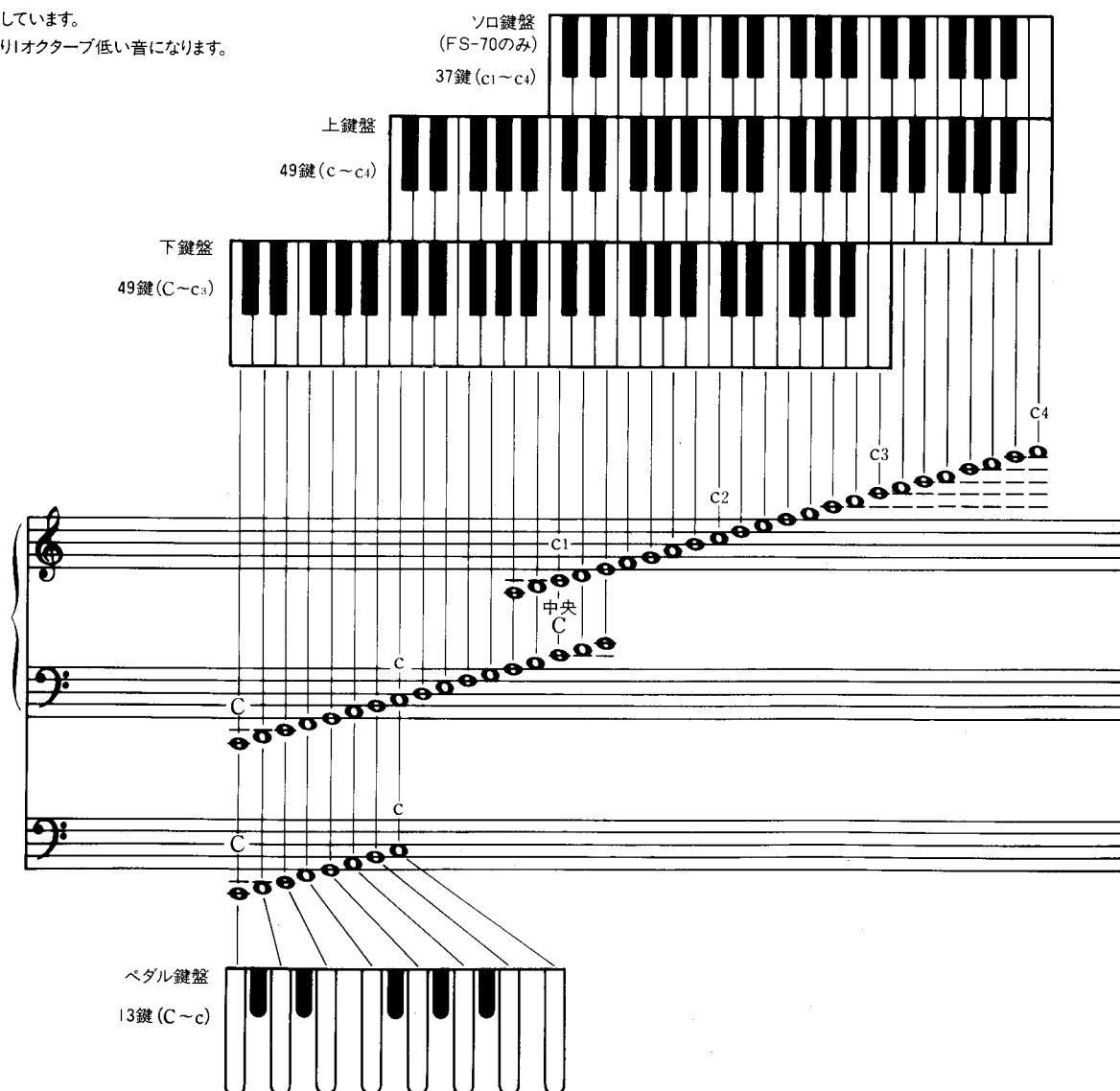
●付属品

レジストレーションパック

## 音域表

●この音域表は8の音を基準にしています。

●ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



本 社 / 〒430 浜松市中区町10-1  
 TEL. 0534(65)1111  
 東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-13/パールビル  
 TEL. 03(572)3111  
 大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館  
 TEL. 06(251)1111  
 名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28  
 TEL. 052(201)5141  
 九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
 TEL. 092(472)2151  
 北海道支店 / 〒054 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター  
 TEL. 011(512)6113  
 仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル  
 TEL. 0222(22)6141  
 広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F  
 TEL. 082(221)4122  
 浜松支店 / 〒430 浜松市鍛冶町321-6  
 TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。



**YAMAHA**

日本楽器製造株式会社